

『ゆっくりちえんとゆっくりらんしゃま』

ある日、俺は気分転換に原っぱに散歩に出ている。すると、どこからか声が聞こえてくる。辺りを見回したが俺以外に人はいない。不思議に思い、声のする方に行ってみるとそこには猫耳が生えた生首と狐のシッポがたくさん生えている生首のような生物がじゃれ合っているのを目にした。普通の人なら奇怪に思うところだが、俺はかねがね里の奴らから噂だけ聞いていたゆっくりちえんとゆっくりらんしゃまという生物ということが分かっていたので、奇妙に思うことは全くなかった。最近この里はすれに増えているらしいゆっくり。誰がつけたかは知らんが、その生物の言う「ゆっくりしてってね！」という言葉がそのまま名前になったらいい。一部のゆっくりは田畑を荒らしたり、村の家に押しかけて自分の家だと出張したりするらしいが、基本的には無害で可愛い生き物だということだ。

「ちええええん！ちええええん！」  
「わかるよー！らんしゃまのほうくるよー！」

ゆっくりらんしゃまはゆっくりちえんの名を叫ぶ。するとゆっくりちえんは無垢な子供のようにもぞもぞとゆっくりらんしゃまの方に近づく。普段あまり見かけないゆっくりちえんとゆっくりらんしゃまの戯れを見て、俺はほのかなときめきを感じた。里の人の話では何故だかゆっくりらんしゃまとゆっくりちえんは普段一緒にじゃれあっていることが多く、ゆっくりらんしゃまがゆっくりちえんの親代わりになっていることが多いらしい。俺はしばらくこの2体を遠目から観察することに決めた。

「ちえええええん！ちえええええん！」  
「わかるー！わかる...きゅん！！」

ゆっくりらんしゃまの方へ行こうとしたゆっくりちえんが突然転んだのだ。この丸い体でどう転んだのか疑問だがこの際、気にしないことにする。

「う.....ううっ.....」  
「ちええええん！！ちええええええん！！」

つまづいたゆっくりちえんは今にもあふれそうな涙を必死に堪えている。ゆっくりらんしゃまは急いで転んだゆっくりちえんの元に駆け寄った。

「ちええええええん！！だいじょうぶ？いたくない、いたくない？」  
「う.....ううっ.....うえ.....んぐう.....」

今にも涙の洪水があふれそうなゆっくりちえんを見て、ゆっくりらんしゃまは右往左往する。

「う.....わ.....わかるよー！ちえんつよいこだからへっちらだよー！」  
「ちええええん！だいじょうぶ？けがない？」

ゆっくりちえんは何とか涙を堪えることに成功したようだ。しかし、ゆっくりらんしゃまは相変わらずオロオロしている。

「じぶんのことくらいわかってるよー！へいきだよー！」  
「ほんと？」

「ほんとだよー！」  
「ほんとにほんと？」

「ほんとにほんとだよー！」  
「よかったあ.....」

ゆっくりちえんの満面の笑みを見たゆっくりらんしゃまはほっと一息つく。

「じゃあそろそろかえって、ごはんにしようか」  
「ごはん！？わかるよー！ちえんのだいこうぶつたべられるのわかるよー！」

そして2体のゆっくりは仲良くぴょんぴょんと跳ねながら原っぱの向こうへと消えていった。2体が去っていったのを見届けた俺は村の道へと軽やかな足取りで戻っていった。なんだかいつもより速やかで晴れ晴れとした気分だった。

- 鼻の奥が無性に鉄臭いですorz -- ゆっくり好きな新参者 (2009-04-20 23:43:59)
- 不覚にも萌えてしまったぜ・・・ -- ゆっくり愛好家 (2010-01-13 13:50:56)
- 私もこういう光景を見たら気分が晴れ晴れするな～ -- 名無しさん (2010-01-16 20:14:36)
- ちえええええええええん -- 名無しさん (2011-04-26 20:35:26)
- 癒やされたあ -- ゆっくりかわいいよゆっくり (2011-08-16 18:35:44)

名前:

コメント:

投稿